



被団協



● 発行所
 北海道被爆者協会
 札幌市白石区平和通
 17 丁目北 6-7
 北海道版 北海道ノーマア・ヒバクシャ会館内
 TEL/FAX 011-866-9545

北海道被爆者協会 ホームページ <http://h-nomore-hibakusha.org/> メール dohidankyo@poppy.ocn.ne.jp

― 被爆 76 年夏・追悼会 ― 再び被爆者をつくるなの思い新たに

議を日本政府は欠席、その席に一羽の折り鶴が。そこには「もしあなたがここにいれば」と書かれていました。そこから生まれた合唱曲です)



8 月 6 日、札幌市内で今年の原爆死者追悼会が行われました。被爆者協会と実行委員会の主催、コロナ感染防止のため参加者を制限、そのため報道関係を除いて六四名の参加でした。

会長代行廣田さんは「核兵器廃絶を必ず実現したい」と力強く挨拶。広島で被爆した金子廣子さんの証言、来賓挨拶、平和への誓いがあり、物故された方々に献花し平和への思いを新たにしました。いつもの合唱も、北海道合唱団に合わせ「原爆を許すまじ」と「もしあなたがいれば」を心の中で歌いました。(核兵器禁止条約の交渉会

高校生藤野真莉絵さんの「明日への誓い」も感動的でした。一部を紹介します。「2019 年長崎の原爆資料館を訪れ初めて原爆がすぐそこにあるのだと、本当に恐ろしいものだと思えたのです。私が見て、考えて、伝えていかなければならないと思ったことを伝えられるのは、私自身だけ。私が伝えなければだれも伝えられない。私たちがだから伝えられる人がいる。

これからも、自分たちなりの表現方法で、語り継いでいきたいと思えます。」

被爆の証言と原爆展を開催

7 月 15 日と 16 日、道庁一階ロビーで二世プラスの会とともに「被爆の証言と原爆展」を開催しました。今年で

7 回目です。溶けた瓦、23 年後に体内から摘出されたガラス片など原爆被害のすさまじさを物語る遺品、パネル、原爆の絵、書籍等を展示、被爆者と二世が当時を証言しました。

来場者は約 230 名余り、例年より少なめですが、二度と核兵器を使わ

せてはいけなことがわかった」(20 代)「私たちができることは次の世代に伝えていくこと」(60 代)ともごも感想を述べていました。



絵本原画とナガサキ原爆版画展も

7 月 23 日から一週間、札幌市の奥井理(みかく)ギャラリーで『北の里から平和の祈り』原画とナガサキ原爆版画展」を開催しました。

絵本は長崎で被爆した七歳の少女まり子が祖母とともに北海道に渡りノーマア・ヒバクシャ会館にマリア像を寄贈するまでがやさしい文と絵でかかれています。



また版画展には 4 歳の時長崎で被爆した平方亮三さんの版画を展示。函館の平方さんは棟方志功らが始めた日本板画院の著名な版画家です。燃え盛る長崎の街、死者への鎮魂、被爆者の抱える不安などが描かれています。医師福山桂子さんの陶芸作品も協賛・展示されました。

24 日には佐藤広也さんの絵本の読み聞かせ、25 日には旭川在住のシャノン歌手松田ひとえさんたちの「平和の祈りコンサート」も会場で開催されました。松田さんは被爆二世、父母の被爆体験と二世としての思いを語りながら情感たつぷりに歌い上げました。途中涙する人もいました。「美術作品による原爆反対の訴えは、静かながら感じるところ大ですね。よい企画であったと思います」「ムスタキが久しぶりに聴けて感激しました。ありがとうございます」などの感想が寄せられています。大きな成功を収めた企画でした。